



佐土原ロータリークラブ週報



SERVICE Above Self

超我の奉仕

2005-2006 年度RIテーマ

会 長：岩切正司 幹 事：柳田光寛
 副 会 長：佐藤高元 会報委員長：林 厚雄
 会 計：荒武義博
 事 務 局：〒880-0303 宮崎市佐土原町東上那珂 10255
 TEL：0985-30-5766 FAX：0985-30-5788
 携帯：090-2078-0483 齊藤美喜代
 例 会 日：毎週水曜日
 例 会 場：ハイビスカス ゴルフクラブ
 TEL：0985-73-0109

次週 3月8日プログラム予定 ロータリー情報

第919回 平成18年3月1日（水）

本日のプログラム

- 1. 点 鐘
- 2. 「奉仕の理想」
- 3. 会長の時間
- 4. 幹事報告
- 5. セレモニー
- 6. 会員卓話
- 7. 点 鐘

1985年に日本に国費留学した際、支給されたのは月8万6千円で満足に生活できたので気持ちに余裕がありました。貯金が100万円でき起業資金になった。投資の秘訣は生活するためのお金を別に確保しておくこと。そうすれば全額失っても冷静でいられる。不思議とお金は増えるものです。

日本人はリスクを全く取らないか取りすぎるか極端です。お金について正面から議論しないからです。小遣いを増やすために投資しても結局、消費してしまう。預かったお金を運用するファンドマネジャーのつもりで投資してみてもどうでしょう。

投資したお金は社会のためのお金と思えばいいのです。



宋文洲さん

学生時代に開発した土木解析ソフトの販売を始め、92年28歳の時にソフトブレインを創業。経営を通して日本企業の非製造部門の非効率性を痛感した。

第918回の記録 平成18年2月22日

★ 会長の時間 会長 岩切正司 君
 マイバランス
 生活費を別に確保し投資。
 不安なくなればお金は増える。ソフトブレイン会長
 宋文洲さん

中国共産党による革命で、事業家だった私の家族は何度も土地や家財を没収されました。受け取ったのは貧農たち。共産党では貧しい農民たちほど階級が高く、金持ちの財産を優先的に分配されたのです。

貧農の子は学校に白いパンを持ってきたけれど、私は芋の粉で作った真っ黒いパンだから恥ずかしかった。しかし母親は「稼げないのは怠けているからではない。正々堂々と食べなさい」と言いました。

所有欲が強く、他人の富をうらやむ心が貧しい。鄧小平政権下で実力次第で機会が与えられるようになってから裕福になったのは結局、かつての金持ち層でした。目先の快樂にお金を使い果たさず、将来へ投資する感覚を備えていたからです。

★ 幹事報告 柳田光寛 君

○ 例会変更 なし

○ 例会場移動の連絡

宮崎西 RC

3月より例会場を宮崎観光ホテルよりワールドコンベンションセンターサミットへ移動いたします。

★ I・M報告

佐藤高元 君

平成 18 年 2 月 19 日(日)ワールドコンベンションセンターサミットを会場にして半日の日程で行われた。前半は開会行事に続き占部賢志氏の「生き方の鑑としての歴史」と題する基礎講演を大変感動深く拝聴した。歴史に学ぶ思いやりの心はロータリーの超我の奉仕と相通じるものである。

後半は、超我の奉仕・クラブ活性化について、4 人の意見発表が行われた。いくつかのクラブがお互いの情報を交換し合い相互の親睦を深めることは、それだけでクラブの活性化につながる。

「武士道」の話も出て現在の世相を反映した I・M でもあった。

計画・運営を担当されたクラブの皆さんに(ホストクラブ・宮崎北 RC) 感謝申し上げます。



占部賢志氏の基礎講演より

明治時代の我々の先輩達の善意と国の対応が 100 年後に 215 日本人の命を救った。この事実を子供達に伝えたい。

1985 年にイ・イ戦争により国外脱出を余儀なくされたイラン国内の日本の会社の社員、そして家族 215 人がテヘランの空港に取り残されました。

日本航空は救援のため旅客機を準備しましたが外務省が手をこまねいている間に事態が悪化、「帰る際の安全が保障されない」と、テヘランへ飛ぶのを諦めました。しかしイラク軍による攻撃 1 時間前に危険を承知で飛んできたトルコ航空機に救助されたのです。

「何故トルコは、そんな危険を冒してまでも他の国の人を助けるために働いたのか」と不思議に思われるでしょう。

明治 23 年、トルコの使節団 660 名を乗せたエルトゥールル号が和歌山県沖で台風の直撃に遭い沈没してしまいました。荒れ狂う海、岩に体を叩きつけられながら生死をさ迷いやつとのこととたどり着いた大島の陸地は高さが約 60 メートル程もある断崖が立ちはだかっていました。その時は深夜で暴風雨でしたが、事態を知った大島島民は救助を開始しました。「まず生きた人を救え」海水で血を洗い、兵児帯で包帯をし、泣く者、わめく者を背負って自分達の命もかえりみず 60 メートルもの断崖をよじ登って助けたそうです。

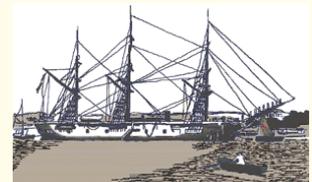
暴風雨のため火もおこせないので、島民はトルコ人を腕に抱き人肌で温めて介抱に当たったといいます。台風が過ぎた後は、非常事態に蓄えていた食糧を与えたり懸命な努力により 69 名のトルコ人の生命を救いました。また当時の明治天皇は生存者全員に手厚い看護をし、回復すると日本の船に乗せ無事トルコに帰国させている。

このエルトゥールル号遭難の事はトルコの歴史教科書にも掲載され、子供さえ知らない者はいないということです。

辛いニュースが多いこの世の中で、本当に優しさを取り戻せそうな事実の物語です。この心温まる行動は後世の子供たちに引き継がれたいものです。



大島の海岸



エルトゥールル号

～ MENO ～

出席状況 第 915 回 平成 18 年 2 月 1 日

会員数	29 名	欠席者数	5 名
出席者数	24 名	メイクアップ	2 名
出席率	83.0 %	修正出席率	89.6 %

■ 四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか